

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3591000033		
法人名	社会福祉法人 大和福祉会		
事業所名	グループホーム やまとの里		
所在地	山口県光市岩田267番地		
自己評価作成日	平成26年5月29日	評価結果市町受理日	平成27年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年6月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

個の事業所だけでなく同福祉会のグループ内での良い所、改善する所があれば福祉会全体で共有し検討などしています。またスタッフは毎月勉強会に参加し、知識や技術を身につける機会を設けてあり、サービスの質の向上に努めています。  
各御利用者の生活歴や意向、好みの把握に努め、一人ひとりに応じた支援を心がけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

日常生活の中での利用者の言葉や行動を全職員で共有できるようにしておられ、利用者一人ひとりの思いや意向を大切に支援に取り組んでおられます。課題を分析して介護計画を作成しておられ、目標に対応した記録の書式を工夫され、具体的なケアに反映させておられます。月一回の法人研修で、新たに知識を得られる他、事業所独自で技術研修を実施されるなど、働きながらの知識と技術の取得と向上を目指しておられます。「住みなれた環境の下、その人らしさ、家族の絆を大切にし、利用者のペースに合わせ、安心できる暮らしを提供します。」というやまとの里の理念の下、利用者職員が共にゆっくりとした時間を過ごしておられ、利用者のペースに合わせた安心できる暮らしができるよう実践しておられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に運営理念を掲示しており、職員間で共通理解し、実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回の会議で管理者が理念について説明し、全職員で共有し、日々のケアに取り組んでいるなど、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同福祉会の施設の慰問に参加したり、地域に外出したりしている。 またご近所の方より頂いた花を育てたりしている。	法人主催の夕涼み会や運動会、敬老会への参加や月1回法人施設に来訪するボランティア(竹楽器、アコーディオン、オカリナの演奏会、日本舞踊、フラダンス)と交流している他、併設のデイサービス利用者との交流もある。 地域の知的障害施設のフェスティバルに参加して、交流している。日々の散歩時や買い物時に地域の人と挨拶を交わしたり、季節の花の差し入れもあり、交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の対応のコツなど職員は勉強し実践しており、運営会議の場で話し合ったり、ご家族とお話したりしている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の評価を職員や運営推進会議の場で発表している。目標計画に沿って、少しずつ改善に取り組んでいる。 職員皆で自己評価を行った。	管理者と職員は評価に意義について理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。前回の評価結果を基に、目標達成計画を立て運営推進会議で報告をしている。評価への取り組みを通して、職員間で理念に沿ったケアの取り組み方について話し合い、理念の実践につなげている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、意見交換をおこないサービスの向上に活かしている。 議事録を残し活用している。	年6回開催し、運営状況や事故報告、看取りについてや外部評価等の報告をして、市の情報などについて意見交換や話し合いをしている。災害対策についての意見から、避難訓練に地域メンバーの参加を得るなど、サービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員の方が運営委員のメンバーで協力関係を築けている	市担当課とは、運営推進会議の他、出向いたり電話で情報交換をしたり助言を得ているなど、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを置いている 身体拘束のない介護を目指していることは職員間での共通認識となっている。 勉強会も実施している	身体拘束防止対策マニュアルを整備し、全職員が法人研修で禁止行為についてや対応方法等について学び、正しく理解をしている。玄関は施錠していない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施しており、職員相互で防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	受け入れをしている同福祉会の管理者より資料の作成と勉強会をしてもらっている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にもとづき説明し、理解納得していただいている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	24時間の受付体制と第三者委員を選出し外部者へ相談または苦情を申し立てられるようにしている。意見箱の設置もしている	利用開始時に苦情の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。意見箱を設置している。面会時や電話で家族からの意見や要望を聞いている。運営に関わるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を聞きできる限り反映できるよう心掛けている。 また同福祉会同士の運営に関する意見交換の場も設けており、管理者が職員からの意見を代表して報告している。	管理者は日々の業務の中や毎月の会議で職員からの意見や提案を聞く機会を設けており、法人の会議で(苑長会議、主任会議、給食会議など)報告し、検討している。職員の意見から、食事が楽しめるようにバイキング形式を取り入れているなど、意見を運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがい・向上心をもって働くことができるように努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や外部研修への参加機会も確保しており、研修内容の共有による育成もできている。	外部研修は職員に情報を伝え、段階や研修内容に応じて参加の機会を提供している。受講者は伝達研修をしている。月1回の法人研修で、法人の職員や事業所の管理者が講師となり、看取りや嚥下、口腔ケア等について、全職員が受講している。介護の知識や技術を管理者が指導している。看取りについて、研修後にアンケートを実施し、職員の意識の向上に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同福祉会の交流や勉強会を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面接しご本人の要望を聴取して受け入れ体制を整えている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望は傾聴し意向に沿えるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望から支援方法を見極め職員が対応できるように努めている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できないところの援助をおこない、できるところはやっていただけ関係を築いている。家事作業の声掛けもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは密に連絡をとり、ご家族のご本人への思いを大切にしている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会していただき、なじみの場所へのお誘いが実現できるよう援助している ご家族と一緒に外出している。	手作りの年賀状を出す支援の他、馴染みの店に買い物に出かけたり、家族の協力を得て盆参りや自宅への外出、外食など、馴染みの関係が途切れないように支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が関わりあえるよう職員が関わっている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば柔軟に対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から意向を聴取して日々の生活でご本人の意向を把握するよう努めている	利用者を担当する職員が、日々の生活の中で利用者の様子を記録したり、24時間データシート(日課、意向、好み、自分でできること、サポートの必要なこと)を活用して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討し、全職員で共有している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当のケアマネージャー、ご本人、ご家族から情報収集に努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で意見を共有することで現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を実施しご本人やご家族の意向を職員同士で意見を出し合って現状に即したケアプランを作成している	利用者を担当する職員が中心となってカンファレンスを行い、本人や家族の意見や法人の看護師の意見やアドバイスを参考にしている話し合い、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを実施し、6か月に見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録や日誌、申し送りノートを活用して職員間で情報を共有し実践につなげている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて受診先を考慮している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同福祉社会デイサービスと連携してボランティアなどの慰問をうけている。 ご家族が花をもってきて下さったりしている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状況報告を協力医療機関と密にし、ご本人、ご家族の意向を確認しながら、医療が受けられるよう支援している	本人や家族等の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援している。法人の看護師と連携して、日々の健康状態の報告をしている他、緊急時の対応があるなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報交換を密におこなっており、ご利用者が適切な医療を受けることが出来るよう支援している		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は付添い、情報提供書にて入院前の状態を報告。医療方針などの把握と退院後は、サマリーを通して経過や留意点を把握している		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアが必要となったとき、ご家族の思いを確認し、医師、看護師、職員のチームケアで終末期ケアがおこなえるようにしている	重度化した場合における対応に係る指針があり、契約時に家族に説明をしている。事業所独自の看取り介護指針があり、全職員が指針に基づいた研修を受けている。重度化した場合は、早い段階から、かかりつけ医や法人の看護師、家族や職員等で話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書を記入し、対応策を検討し、事故防止に努めている。危険予知について職員間で話し合い認識し、初期対応の訓練をおこなっている。 骨折、窒息、一過性脳虚血の対応など勉強している。	事故報告書に記録し、「転倒・転落アセスメントシート」を活用し対応策を検討し、ケアプランに反映して、再発防止に努めている。急変時のリスクマネジメントや骨折、一過性脳出血、出血時の初期対応について定期的に訓練を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練は年2回実施している。地震・水害についての訓練は未実施であるがマニュアルを作成した。 前回の評価での指摘を受け、今回は地域の方にも訓練に参加していただいた。	年2回、昼夜を想定して、利用者も参加し避難訓練を実施している。法人内の他施設との協力体制に加えて、運営推進会議メンバーの地域住民が訓練に参加しているなど、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間として尊厳を失わないような対応に心がけている。 勉強会でも接遇や尊厳についておこなっている。	接遇研修で学び、利用者一人ひとりの尊厳を大切にして、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを大切にし、自己決定を尊重するようにしている。 定期的に本人の意向をまとめ、職員間で共有している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切にした支援を心がけている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、出張理容室を利用しており、洋服などもご本人の好みを尊重している		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けなど出来る事はしていただき、食事の際は職員も同席している。 法人の給食会議に管理者が出席し、御利用者の意見を発言している。	食事は法人からの配食を利用している。利用者は、盛り付けやテーブル拭き、盆拭き、食器洗いなど、出来ることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルで同じ物を一緒に食べている。おやつづくり(桜餅やおはぎ、シャーベットをつくる)、おやつバイキング(ワッフル、ゼリー、プリン、ケーキ)、郷土料理バイキング(中国5県の代表料理)など、食事を楽しめるように工夫して、支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の嗜好を考慮し食事摂取量のチェックや水分補給に気を配っている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、無理なく職員が介助できる援助をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェックシートを活用し排泄のリズムをつかみ声掛け誘導し、なるべくトイレでの排泄の支援をしている	チェックシートを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行い、食事、運動、内服薬と総合的に排便のコントロールを心がけている 毎日看護師に報告して連携もしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	木曜日・行事の日以外は基本的に、入浴されている	木曜日を除く毎日、13時から16時までの間入浴が可能で、一人ひとりがゆっくりと入浴できるように個々に応じた入浴を支援している。入浴をしたくない利用者には、タイミングを見ながら声をかけたり、清拭等に対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入室後は巡回で状態確認。ナースコールやセンサーが鳴ればすぐに対応し安心して眠れるよう支援している。週1回、もしくは状況に応じシーツ交換し、安眠の支援をしている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の内服薬情報がいつでも見られるようにしてあり、内服薬について職員全員が把握できるようにしている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に散歩、外気浴、レクや台拭き、食器洗いなど、生活の場面でできる事をしていただけるよう、声掛けしている	ぬり絵、習字、折り紙、なぞり字、計算ドリル、ことわざ問題、穴埋めクイズ、パズル、おやつ争奪的当てゲーム、間違い探しゲーム、おかしつりゲーム、ひな祭り、七夕、運動会、誕生日会、テレビ視聴(時代劇、通販番組)、歌を歌う、新聞を読む、苗植え、野菜の水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物仕分け、テーブル拭き、盆拭き、食器洗いなど、一人ひとりの活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望をご家族に伝え、ご家族による実現やレクや行事などに組み入れて外出できるように支援している。 行事で外出する際は、事前にご家族にお知らせし、中には現地に来られるご家族もいる	事業所の周辺の散歩、法人の敷地内に数カ所地蔵が設置してあり、散歩を兼ねて地蔵参りをしたり、買い物や季節の花見(桜、紫陽花、バラ、紅葉狩り)家族と協力しての外出など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理ができる御利用者がおられず、管理は苑側でおこなっている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀はがきを手作りして出された。 電話など希望があれば沿うようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感をとり入れた掲示板的飾り付けをしたり、湿度や温度、換気に配慮し居心地よく過ごせるようにしている。	共用の空間は明るく、温度や湿度、換気にも配慮している。大きなガラス戸からは外の景色を見て季節の移り変わりを感じることができ、玄関や居間には生け花が飾ってあり季節感を感じることができる。玄関の外や内側にソファを置いて、利用者がお気に入りの場所で居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑内のいくつかの場所に設けている。 外にもベンチを置く等している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今までご本人が愛用された物を持ち込んでいただいたり写真をかざったり、落ち着いて過ごせるよう支援している	ハンガーラック、収納ケース、机、椅子など使い慣れた物や好みのものが持ち込み、自作のカレンダーや折り紙で作った季節の作品、家族の写真等を飾り、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は出来ないところの援助、支援をこころがけねざらいながら自身でできることをしていただくよう支援している		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームやまとの里

作成日: 平成 27 年 1月 27日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	毎月、勉強会で、知識、技術のスキルUPをしており、参加率も高い。 今後も継続したい。	ニーズに合った勉強会の継続。 全体の勉強会後の技術の勉強会の継続。	各職員に技術の講師をしてもらう。	1ヵ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。